

お口の健康を守る  
身近なパートナーとして

村山 まずは在宅歯科医療連携室の概要を教えてください。

杉本 在宅歯科医療連携室は、十勝、釧路、根室、道南、道北、道央、オホーツクの順に設置されました。電話やファックスで相談を受け付け、相談員がいる地域では無料事前訪問や、歯科医師による訪問歯科診療を行っています。

村山 相談数はどれくらいでしょうか？

木本 札幌では今年度252件の相談がありました。昨年度1年間の130件と比べると倍増しています。

明田 釧路は年間200件弱です。割合は8割がケアマネジャーからで、訪問看護師、ご家族からの相談も増えています。

渡辺 十勝は12月末で103件と昨年の同時期より10件ほど多く、わずかながら増えています。

澤谷 道南は毎年130件ほど。最近は一ご家族やご本人からの相談が増えた印象があります。

村山 多くの連携室で相談数が増えているのは嬉しいことですね。



木本 介護予防教室でのリーフレットの配布や声かけなど、広報活動の効果を少しずつ感じています。しかし実際に相談する際、高齢の方だと電話帳で番号を調べたとか、子どもにネット上で調べてもらったなど、やっと相談できたという方もいるのが現状です。

渡辺 また、連携室に電話をいただけるとは嬉しいのですが、相談を受けた時点で既に症状が重く、一もつと早く連絡をいただけたら治療の選択が広がったのにも感じることがあります。

村山 連携室があることが上で、早めの相談が肝心ということですね。どの時点で相談したらよいのでしょうか。

木本 食事に時間がかかるようになってきたり、むせやくくなった、食べる量が減ったなど、小さな違いを感じたときです。ご家族やケアマネジャーには患者さんに対して気をつけていただき、何かあればすぐ連絡してほしいです。

たむせやくなくなった、食べる量が減ったなど、小さな違いを感じたときです。ご家族やケアマネジャーには患者さんに対して気をつけていただき、何かあればすぐ連絡してほしいです。

医療・介護従事者との繋がり強化

村山 歯科以外の専門職の方に、口腔環境の重要性や連携室の情報が伝わっていないと感じることはあります。また、自分で歯みがきができていないから大丈夫と思ってしまい、口腔内の汚れや異常の発見が遅れてしまうこともあります。

明田 多職種の方が関わっていても口腔内の問題に気づけないことがありますが、また、自分で歯みがきができていないから大丈夫と思ってしまい、口腔内の汚れや異常の発見が遅れてしまうこともあります。

渡辺 そのケアに効果があるのか、口腔内環境はどうなっているのかまで判断するのは難しいものです。そこは連携室にどんどん頼ってもらいたいです。

村山 ケアマネジャーや訪問看護師が口腔内の健康の重要性と連携室の存在を知っていれば、患者さんのためにできることがもっと増えそうです。

明田 歯科衛生士のアドバイスをもとにケアしていただくことで、食事時間が短縮されたり、口臭が軽減されたりといった介護者の負担軽減にも繋がると感じています。

澤谷 できれば週に1回でも歯科専門職のケアが入ることが理想的です。サービス担当者会議にも、歯科医師や歯科衛生士を積極的に呼んでいただきたいと思います。

木本 入院による体重減少で入れ歯が合わなくなることも多いので、退院時のカンファレンスにも介入したいです。また、在宅から入院する場合も入れ歯の有無や普段の食事の量など、相談員から病院の看護師に知らせるような情報のやり取りも重要だと思います。

村山 体重減少で入れ歯が合わなくなることは、知りませんでした。

木本 その逆で体重が増えたり、むくんだりした場合も入れ歯が合わなくなる可能性があります。また、入れ歯を煮沸したり、乾燥した状態で放置することも避けたいですね。入れ歯が変形し、合わなくなる原因になります。

明田 入れ歯のお手入れには、入れ歯専用の歯ブラシと洗浄剤を使用する

専用の歯ブラシと洗浄剤を使用する

# 道民の健康を守るために 「在宅歯科医療連携室」

## ができること

### 北海道 歯科医師会 特別座談会

「在宅歯科医療連携室」とは、ご自宅・施設・病院で療養されていて歯科医院に通院できない方の相談窓口です。歯・口腔の健康に関する身近な相談機関として、道南、道央、道北、オホーツク、十勝、釧路・根室の6圏域に設置しています。在宅歯科医療連携室が行う取り組みや、多職種との連携の重要性、歯を健康に保つことの大切さについて在宅歯科医療連携室相談員と介護支援専門員(ケアマネジャー)に語り合っていました。



道央圏域 相談員  
木本 恵美子氏



道南圏域 相談員  
澤谷 幸絵氏



十勝圏域 相談員  
渡辺 トモ子氏



釧路・根室圏域 相談員  
明田 めぐみ氏



北海道介護支援専門員  
協会 会長  
村山 文彦氏



北海道在宅歯科医療  
連携室 事務局 相談員  
杉本 未里氏



村山 入れ歯のケアひとつとっても、たくさん気をつけるポイントがあります。

渡辺 十勝では、中核病院と連携を取り、入院中に訪問して入れ歯を治す取り組みも増えてきています。近隣の病院からは、今年度40件以上の相談がありました。そういった病院との繋がりが、患者さんにより最適なサポートができると思います。

村山 連携室と病院や医療従事者、介護従事者との繋がりを。これは今後さらに強化していきたい部分ですね。

#### これからの連携室のあり方

村山 みなさんの思い、在宅歯科医療連携室の今後の目標を教えてください。

木本 口腔内がどれだけ健康であるかで、最期までいきいき過ごせるかが左右されると思います。私は両親の介護を経験しましたが、父は美味しいものを食べる、母は家族と話して笑うことが最期の喜びでした。お口の健康がその方の生き甲斐を守る。それほどお口の健康は大事ということを、多くの人に伝えていきたいです。

澤谷 木本さんの言う通り、歯科は人生の最期まで生活を支援する職種だと思います。治して終わりではなく、患者さんと長く歩んでいくという意識を、私たちも常に忘れずに取り組んでいきたいですね。

渡辺 十勝の過疎化が進む地域には歯科医師、歯科衛生士の不足問題があります。その問題を解決するために一昨年から浦幌にサテライトを設

置し、地域の方々に活用していただいています。今後もサテライトを増やして、地域密着型の連携室に育てていきたいです。

明田 この仕事のやりがいは、やはり患者さん、ご家族からの喜びの声です。この体制をなくすことなく継続していけるような体制作りをより一層強化していきます。

杉本 北海道歯科医師会としては、今後も各連携室の特性を活かした活動を支援できるよう、相談員や歯科医師、歯科衛生士の体制の充実を図っていきます。

村山 ぜひ多くの人に歯やお口の健康を理解していただき、最期まで食べることを諦めず、食べることに意欲を持ち続けてほしいですね。そのためにも、気軽に利用できる身近な機関となるよう、職種の枠を超えて連携室を育てていきたいと思います。



### こんなときは 在宅歯科医療連携室へ!

対象

寝たきり  
などで通院が  
困難な方

下記のチェック項目に1つでも当てはまる方は、在宅歯科医療連携室にご相談ください。

- 歯が痛いようだ
- 入れ歯が合わないようだ
- 食べるときにむせる
- うまく口腔ケアができない
- 食事時間が長くなった
- 歯ぐきが腫れた、出血する
- 体重が減ってきたようだ
- 肺炎を起こしたことがある
- 最近、食事量が減少した
- 最近、食形態が変わった

お問い合わせ

北海道在宅歯科医療連携室の詳しい情報は北海道歯科医師会ホームページをご確認ください。  
<https://www.hokkaido-shikaisikai.com/doumin/renkei/>

